

月形町地域拠点施設整備等審議会視察研修（9／18）結果報告書

研修テーマ 「民設民営による公共複合施設の運営と校舎の再利用について」

日時 令和元年9月18日(水)午前9時30分～午後5時15分

視察先 恵庭市、南幌町

【恵庭市】

●複合施設の管理運営及び施設見学（恵庭市複合施設『えにあす』）

- ・公共サービス～保健センター、夜間診療所、学童保育、図書館など
- ・民間サービス～フィットネスクラブ、コンビニエンスストア、コミュニティFM

【南幌町】

●校舎再利用施設の管理運営及び施設見学（南幌町生涯学習センター『ぽろろ』）

- ・施設の機能～教育委員会事務所、図書館、郷土資料館、指定避難所、コミュニティ活動スペース（貸室）

視察参加者 別添名簿のとおり

1 視察研修

(1) 恵庭市複合施設の管理運営及び施設見学～緑と語らいの広場「えにあす」

【視察先出席者】

恵庭市企画振興部まちづくり拠点整備室

まちづくり推進課長 今野朋幸 主幹 後藤昭悦 主査 東 賢哉

アルファコート(株) 小野定範

①公共施設の集約化

これまで、点在していた公共施設を集約し、所有管理する施設面積を半減すること

に成功している。集約化に当たっては、住民説明や理解を得るとともに、行政の関係部署との調整が必要であった。

施設を集約化することにより、管理面積及び管理経費の削減を図ることが可能と考える。しかし、単なる効率化だけではなく、住民の利便性や施設自体の目的やコンセプトを明確にしなければならない。

②事業スキーム

市有地に定期借地権（30年）を設定し、民間事業者（アルファコート(株)）が施設の整備、管理運営を行う。公共機能は市が民間事業者から借り受ける。

民間事業者は土地の使用料を市へ納付し、市は公共機能部分の建物賃借料を支払う。

～事業体制～

●土地所有者：恵庭市

●事業・管理運営・施設整備：アルファコート(株)

●建物運営（公共）：市民活動センター、保健センター、児童館、図書館、夜間診療所 ※建物賃借

●建物運営（民間）：宮ノ森スポーツ、セイコーマート ※テナント

公共用地の定期借地権を設定し、民間事業者による施設の建設、維持管理、資金調達という手法は、大型公共施設のイニシャルコスト、ランニングコストの軽減に繋がる。

小規模自治体の場合、採算に合う施設の建設が可能かどうかは疑問が残ってくる。一定の人口規模や利用者数が見込めない限り、民間事業者が事業化することは難しいと思われる。

③施設のコンセプト

恵庭市では、人を集め、人の流れを作ることを目的に、職場や学校や自宅でもない「もうひとつの居場所」づくりとして施設の整備を推進した。

そして公共機能と民間機能の融合により、それぞれのサービスや利便性の向上を図っている。(フィットネス、コンビニ、カフェ、図書館など)

④事業プロセス

公募型プロポーザル方式を採用している。本町においても、今後は住民サービス機能の高い公共施設の整備に当たっては、プロポーザル方式を採用することが望ましいと感じた。

競争入札では、建設コストの一定の抑制には繋がるが、プロポーザル方式による事業者を選定した場合、施設の機能やデザイン、民間事業者のアイデア等、選択肢が広がる可能性がある。

⑤第三者からの視点

恵庭市では、事業計画のほか、施設整備の方針、プロポーザルによる事業者の選定、決定事業者へのヒアリング等にも検討委員会が関わっている。

施設の規模や機能はもちろんのこと、仕様やデザイン等(設計段階)、より具体的な部分についても、検討委員会や審議会等の意見を取り入れるような仕組みが良いと感じた。

⑥事業効果

恵庭市では、都市計画マスタープラン、まちづくり構想、総合戦略によるコンパクトシティ計画を基に、施設整備を具体化した。そして施設規模や機能については、公共施設管理計画に基づいた施設の適正配置等に沿った形となっている。結果、既存施設の機能や役割を維持しつつ、スペースの共有化等を図ることで、施設面積が半分になった。

⑦質疑応答

Q 1 「えにあす」における学童保育対象となる児童数について

A 1 恵庭小学校の児童が対象で、3教室のうち、当該施設では100人定員(2教室)

としている。通所は徒歩。(学区域内であるため) 複合施設という点で、不特定多数の住民が利用するが、多くの人目があるため、逆に安全性が確保できていると感じている。

Q 2 災害時における役割は

A 2 当該施設は、指定避難所になっていない。しかし昨年の地震、ブラックアウトの時には、住民の避難場所や情報発信機能として大きな役割を果たしてくれた。

理由としては・・・

①エネルギーがガスであったため、ガス発電機を使用し電源確保ができた。(明かりがあるとところに人が集まる)

②コミュニティFMが市内の現状やガソリンスタンドの営業情報等、状況を細かくラジオ放送したことで、あらゆる情報の収集と発信が出来た。

Q 3 その他、施設の集約化、複合化による影響

A 3 施設の集約化に伴い、施設の移転があった。特に保健センターの移転については現場から相当の反対があった。保健センターは「恵み野地区」にあって、わかりづらい場所にあった。「えにあす」に移転したことで利用しやすくなったと思われる。

夜間診療センターは、千歳市内に新しい施設が整備されたことで、患者数が減少すると思われたが、予想に反して患者数の減少は見られなかった。

Q 4 民間事業者の公募に当たって、事前にプロポーザル参加への感触はあったのか

A 4 計画段階から、水面下で問い合わせがあった。当初は1社程度と見込んでいたが、結果的に3つの事業者が応募した。単なる民間事業者による整備ではなく、地元企業にも恩恵があるような事業にならなくてはいけないので、仕様書などには、明記できないが地元企業との連携を促すような内容とした。

(2) 校舎再利用施設の管理運営及び施設見学～南幌町生涯学習センター『ぼろろ』

【視察先出席者】

南幌町教育委員会 生涯学習課長 浅野 茂 主幹 池端 憲一

主幹 渡部 浩二 主任 須藤 秀康

①公共施設の集約化

南幌町では、小学校の統合を契機に校舎再利用と点在していた社会教育施設の集約を目的に生涯学習センターの整備を行った。検討から整備にまでには、2年以上協議を重ねていることから、大型の公共施設の整備については、慎重に計画的に進める必要があるものと再認識した。

公共施設の集約化は、今後の人口減少や町財政負担等を考慮し、全町的な問題として取り組んでいく必要がある。

②施設整備のコンセプトとプランニング

複合的な施設は、多様な利用者ニーズに応えながら、公共施設機能を維持し、さらには管理コストの縮減を図っていくことも考えなくてはならないため、行政としては施設整備の目的や経費（イニシャルコスト、ランニングコスト等）等についても、将来を見据えたプランニング必要であると感じた。

③施設概要

1階～図書室、レファレンスルーム、多目的ホール、教育委員会事務所

2階～郷土資料室、ミーティングルーム、交流室

3階～調理実習室、木工室、視聴覚室、研修室、会議室、教室

④施設の規模と財政負担

南幌町の生涯学習センターは小学校校舎であったため、かなり大きな施設となっている。資料にもあるとおり、改修やその後の維持管理コストも大きな費用負担が伴っている。

学校施設の再利用に当たっては、面積が大きいことから、その規模を有効活用できるように、機能と管理方法を考えて整備する必要がある。

【改修経費及び財源】

- ・ 事業費（改修費）～507,648千円
- ・ 財源内訳（起債）～350,300千円

【管理経費】

- ・ 維持管理経費～33,027.4千円／年（H30）
- ・ 使用料収入～583千円／年（H30）

⑤質疑応答

Q1 利用状況と利用者の移動手段について

A1 文化サークル、民間の学習塾、各種会議利用など様々。利用者の多くは自家用車で来館しているが、町内循環バスの停留場所にもなっている。

Q2 改修箇所について

A2 耐震改修も含めて、エレベータの新規設置、暖房設備、内装は全館改修した。

暖房については、集中暖房式から各室暖房設備を設置し、教育委員会事務所にて集中管理（操作）できるシステムとした。

Q3 公共施設の集約化と他の施設との機能分担について

A3 耐震不足だった公民館を移転し、保健センターにあった郷土資料館、住民要望の多かった図書館を併設することが出来た。健康増進機能は、総合体育館、温水プール、保健センターとしている。

2 視察研修を終えて（意見交換）

■意見 1

拠点施設については、可能であるならば恵庭市のような民間事業者による整備、管理運営が望ましい。皆楽公園整備の議論もあるが、緊急性の高いバスターミナルも含めた拠点施設整備の議論を先に進めるべきはないか。恵庭市の施設は素晴らしいが、町の規模や利用者ニーズに合った施設とするべき。

■意見 2

図書館については、賑わいのある場所、静かな場所、どちらが良いのかしっかりと考える必要があると感じた。施設の集約化については、月形町の色々な施設が点在しているが、公的な機関（機能）が施設内に入ることを基本に、人が集まるような施設を整備する必要がある。拠点施設を整備するに当たって、人が集まってくるような施設になるべき。審議会は現状、何も決まっていないところからスタートしている。バスターミナルの場所や施設の機能だけではなく、整備に向けて何を基本として審議していくのかをこの会議で話し合っていくべき。

■意見 3

住民が集まるような場所にターミナルを設置するのであれば、恵庭市のように人が集まる複合機能施設が良いと感じた。

■意見 4

月形町においては南幌町のような施設規模は必要ないと思う。恵庭市の施設については、月形町の構想にある拠点施設の候補地や施設と比較すると恵庭市と同等の規模のものは整備可能であるが、人口規模などを比較するとそこまで大きなものは必要ないと感じた。

拠点施設の目的としては、バスの発着を軸に、施設整備の目的に沿ってオプションを加えていくというような考えでよい。観光的要素よりコンシェルジュ（乗車券の発

券や案内など) 機能のみで良いと思われる。決められたサイズの中で希望する施設機能を整備し商業施設が備わればより良い。可能であれば民間運営は望ましい。セイコーマートは観光客から見るとある種のブランド。コンビニ利用も観光一つとなっている。

■意見5

目的の設定が重要。公共施設の集約化は必要であり、管理運営は民間に依頼していくというのも基本としてよい。恵庭市のような、コンビニやスポーツクラブを入れるならば具体的に民間事業者の進出が可能かどうかしっかりと考える必要がある。南幌町の施設は維持費を考えるとあの規模は大変である。

ある自治体では、恵庭市のように民間事業者による公的機能を有した施設を整備に関する調査を行った。民間事業者は「人を集める」、行政では公費を投入しているので、一義的には「地域住民の利用」であるというところのギャップがあり、難しい課題となっているのが現状。民間事業者の活用については、より具体的な目的や整備内容を決めて誘致していかないと前に進まないと思われる。

■意見6

施設の再利用が主の目的となると、学校のような大規模の施設となると維持管理経費が大きくなることが懸念材料である。

バスターミナルは必要不可欠であり、町民が集まるような機能を加えていくのか、観光役を対象とした機能としていくのかということを考えることになる。

個人的にはターミナル整備とは別に、道の駅の整備も考えており、町のPRに繋がるような場所を目指したい。財政的に厳しいものがあるかもしれないが、道の駅整備はやるべき施策ではないか。

JR廃止を起因とした公共交通問題だけにとどまらず、小中一貫校、月小校舎の再利用、バスターミナルの整備、道の駅の整備等を議論していくことを望む。

具体的には、月小校舎を複合施設として行政機能や商業スペース、情報発信や観光機能を備え、コスト面で難しい部分はあるかもしれないが、住民生活に関連する機能を有した施設整備を望む。

月形町が小さくなっていくことは理解しつつも、まだ発展できるというところも考えていきたいので、道の駅整備が一つのきっかけで町の活性化に繋がれば良いと考える。町財政は厳しいと思うが、地域資源を有効活用するために、目標を一点集中し、そこへ投資を行うことも必要ではないか。将来的にも整備して良かったと思える施設をにしていく必要がある。

■意見 7

必要なものと不要なものを考え、協議することで月形町に必要とするものを決めて行かなければならない。

拠点施設は住民生活に必要な施設となるため、皆楽公園整備よりも先に議論すべき。

■意見 8

住民生活機能の整備も重要であるが、町もPRしたいので、施設を整備する場所はそれなりにしっかりと考える必要がある。

恵庭市の施設を見て幅広い年代の利用と健康や教養を得られる場所として魅力的な施設であった。

将来的には小中一環を目的とした学校の整備や教育が必要となる思う。小学校はいい場所であり、校舎も有効活用できる。他の公共施設の老朽化問題にも対応できるのでは。

■質疑 1

審議会としては、拠点施設整備と皆楽公園再整備の他に、小中学校の問題等が審議事項になるのか。

■回答 1 (事務局)

小中一貫校の課題整理についても付帯意見として提案（答申）に含めていくことは問題ない。拠点化整備、公園整備、道の駅整備、すべて関連してくる中で、小中学校の問題、公共施設の再編など多くの意見が出てくる中からまとめて答申に盛り込んでいくことになる。

■意見 9

小学校の問題は大きい。今すぐ小学校を移転できるならいいが、時間が必要だと思う。ターミナルは早急に整備が必要であり、それを基本に拠点施設の整備内容や全体的な議論、構想づくりが必要となってくる。検討する内容が大きいので、その先まで考えなくてはならない。

■意見 10

資料の中から、ターミナルだけではなく公共施設の再編など色々なことが関連しており大きなテーマである。

■質疑 2

ターミナルを整備することが前提なのか。

■回答 2（事務局）

町としては必要と考える。代替バス、民間既存バス、スクールバス等の結節点となる。来春からバスの運行がスタートするが、物理的に来春からのバスターミナル建設は無理である。ターミナル単体だけではなく、拠点施設としての機能、場所の選定も含めて色々な角度から議論して決めていく必要がある。

場所が決まっていれば早く進めることが出来るかもしれないが、審議会の意見や考えが整備方針決定に向けてのスタートとなってくるので、その方向性によっては小中学校関連の議論にも繋がっていく。

3 今後の審議（協議）の進め方について

審議会立ち上げ以降、現状把握や視察研修が中心となってきたことから、具体的内容を審議、諮問事項に対する意見集約、決定していく必要があるとの意見があり、第3回目以降の審議会については、グループ単位での審議も踏まえて具体的な議論に入っていくこととした。

【終了】

令和元年9月18日 視察研修名簿

	役職	所属	氏名
1	副会長	月形商工会女性部 副部長	土井 町子
2	委員	月形商工会青年部 副部長	香西 雅之
3	委員	月形町農業協同組合女性部 部長	中村 三賀子
4	委員	月形観光協会 会長	廣野 和男
5	委員	月形町赤十字奉仕団 委員長	松山 俊子
6	委員	NPO 法人 コミュニティワーク 研究実践センター 事務員	熊倉 なみ
7	委員	月形刑務所 看守部長	本多 大輔
8	委員	公益社団法人 北海道観光振興機構 地域支援本部 地域観光部長	生川 幸伸
9	委員	株式会社 道銀地域総合研究所 地域戦略研究部 業務部長	北嶋 雅見
10	町職員	月形町教育委員会 教育次長	内藤 弘樹
11	町職員 事務局	月形町 企画振興課 課長	五十嵐 克成
12	町職員 事務局	月形町 企画振興課 課長補佐	竹内 晶

月形町地域拠点施設整備等審議会視察研修（9／26・27）結果報告書

研修テーマ 「バスターミナル機能を備えた交流拠点施設の運営について」

日時 令和元年9月26日（木）午前8時20分～午後5時30分

令和元年9月27日（金）午前8時50分～午後4時

視察場所 浜頓別町、名寄市

【浜頓別町】

●浜頓別町交流拠点施設の管理運営及び見学（浜頓別町交流館・道の駅『北オホーツクはまとんべつ』）

- ・交流機能～遊びの広場、多目的ホール、多目的ルーム
- ・道の駅機能～情報案内カウンター、ショップ&カフェ、24時間トイレなど
- ・バスターミナル機能～待合ホール、バス乗降場、事務室（券売等）

【名寄市】

●名寄市交流拠点施設の管理運営及び施設見学（駅前交流プラザ『よろーな』）

- ・交流機能～貸し室、イベントスペース（屋上）
- ・バスターミナル機能～待合ホール、バス乗降場、事務室（券売等）
- ・観光拠点機能～観光協会（指定管理者）、物販スペース、レンタサイクル

視察参加者 別添名簿のとおり

1 視察研修

（1）浜頓別町交流拠点施設の管理運営及び施設見学～浜頓別交流館・道の駅『北オホーツクはまとんべつ』

【視察先出席者】

浜頓別町副町長 南 尚敏

浜頓別町産業振興課長 大野仁志 商工観光係長 青海 玲

①交流施設及び道の駅整備の目的と経緯

浜頓別町としては当初、町の特産品を販売する拠点となるような「物産館」の整備・検討のために検討会を設置したが、検討を重ねていく中で、道の駅や物産販売の機能を備えた町民が交流できる施設を目指すこととなった。浜頓別町では、検討会発足から3年、18回の会議を重ねた中での施設整備を行っている。

交流拠点としての整備を軸に、道の駅とバスターミナル機能を持った施設ということで、町外からの観光誘客や物産販売を充実させているという印象はなく、子供広場やコミュニティ活動スペース（会議室）が施設の大部分を占めており、町民が集まる交流拠点というコンセプトが明確な施設となっている。

バスターミナルについては、当初計画に入っていなかったが、検討委員会から、「町民の交流拠点とするならばバスターミナルを設置してはどうか」という意見から現状の施設になった。当該施設への移転に対して賛成の声が大きかったようだった。また、複合施設にしたことで人の流れや人の集まりが多くなり、機能を集約化したことで、町としても一定の成果を感じているようだった。

月形町における拠点施設については、バスターミナルを中心とする公共施設を集約化した複合施設としている。審議会委員からは、道の駅の整備や場所の課題はあるが、拠点施設については、町民生活の利便性の向上、人が集う場としての施設であることが望ましいという思いを感じた。観光的要素を無理に組み込むことで、施設の整備コンセプトが曖昧になる恐れがあるため、施設の機能や規模、場所の選定においては、目的を明確にして整備方針を決定していくことが重要である。

②施設の機能及び整備内容について

浜頓別町交流館は下記の3つのテーマで、次の4つの視点で施設整備を行っている

る。

●交流～遊びの広場、多目的ホール、多目的ルーム

●道の駅～情報案内カウンター、ショップ&カフェ、24時間トイレ、駐車場

※全国初の液体ミルクと紙おむつの自動販売機を設置（役場庁舎に設置しているコーヒー自動販売機の売り上げによりおむつの自動販売機を運営している）

●バスターミナル～待合ホール、トイレ、バス事務室、乗降場所（2台）

の3つのテーマで、次の4つの視点で施設整備を行っている。

【4つの視点】～詳細は別紙資料のとおり

・魅力ある顔づくり ・利用のしやすさ ・安心・安全 ・維持管理

③事業費及び財源

整備費用～933,238千円

財源内訳～道補助金（地域づくり総合交付金）80,300千円

地方債（過疎）502,000千円

公共施設整備基金（町負担）223,500千円

④施設の管理運営体制

検討会において、町直営と指定管理者による管理運営と、それぞれについて検討した結果、指定管理者による管理運営を行うべきという提言もあり、町としては指定管理者による管理運営を選択している。指定管理事業者は、地元商工会が受託している。また、当該施設内に事務所を設けている。

⑤交流館の物産販売等について

交流館内には、ショップ、カフェのスペースを整備し、地元町民の新規創業事業者がパン屋を出店した。若干のお土産品等の物産販売も行っている。

起業にあたっては、町の支援事業を利用し出店している。（2分の1、上限300万円）

浜頓別町は本町と同じように特産品が少なく、物産販売については苦勞している状況だった。以前は地元で海産物の加工場などがあったが、現在は加工品を手がけている事業者がほとんど無いため、物産販売が思うように進んでいない状況であった。やはり商業、農（漁）業、関係団体の協力が不可欠である。

⑥事業プロセス

浜頓別町では、施設設計にあたり、公募型プロポーザル方式を採用している。6社から応募があった。

施設整備については、検討委員会以外にも職員によるワーキンググループを設置し、行政内部でも横断的に施設整備を推進していた。

公共施設を集約し複合化する場合は、多種多様の利用が想定される中で、施設の具体的な機能や仕様などについても横断的に議論することが必要と感じた。

浜頓別町では、供用開始1年前に「交流館開設準備室（2名）」を設置し、指定管理の手続きや出店者の募集、人材確保などの業務を担当している。複合施設の整備においては民間事業者等との連携、行政内部の横断的な協議、調整等を考えた場合、このような体制づくりが必要であると感じた。

⑦質疑応答

Q1～敷地は町有地か？

A1～元々は国鉄敷地で廃線時に町へ払い下げとなり、その後アメニティ公園として整備してきた。駅舎跡に鉄道の代替バスのターミナルが建設された。（現図書館）

Q2～経済圏は？

A2～名寄市が中心となる。（商業圏、医療圏）国鉄の代替バスである宗谷バスが路線バスとして運行している。

Q3～町内の公共交通は？

A3～宗谷バスの路線バスの他、町営のデマンドバスが各地域をカバーしている。現

在は新しいバスターミナルにすべてのバスが接続している。

Q 4～施設内で営業している店舗（パン屋）は町内業者か？また、お土産品の販売もその出店業者が行っているのか？

A 4～新規創業により出店した。（町の起業支援制度活用）パンの他にも物販も行っている。

Q 5～施設整備の検討の途中で道の駅が加わっているが、どのような経緯だったのか。

A 5～当初は物産館の計画だった。しかし通年で特産品などが販売できるものがなかった。（海産物等、時期限定になる）それでは、物産館としては運営が厳しいという判断となった。そこで、人と人が（町内外問わず）交流し繋がりあえる場として整備しつつ、道の駅というメジャーなネームバリューを活用しようということとなり、道の駅構想に発展した。

Q 6～現在の多くの道の駅は物販が充実しているイメージがある。商品があまり多くないと感じたが、その点の評価や今後はどう考えているか。

A 6～町議会からもその点について指摘があった。町民も特産品等の物販が充実しているというイメージを持っており「何も無い」という声があるのも事実。町としても危惧しているところである。現在、パン屋が出店しているが、パンの販売とカフェスペースの運営で、物販の充実まで至ってない状況である。今後期待している。

Q 7～海産物の販売は？

A 7～現状として、漁業関係の景気が好調であり、加工品などの開発や販売については力が入っていない。

Q 8～鉄道敷地などは無償譲渡だったのか。

A 8～約30年前の国鉄時代のことなので現時点では詳細は説明できないが、レール等は撤去された状態での譲渡だったと推測する。

Q 9～旧バスターミナルに図書館が併設されていたが、当初からバスターミナルと図書館の複合施設として整備したのか？

A 9～建設当時から、バスターミナルと図書館が一体となっていたが、図書館については他の場所からの移転で、当初は一時的（仮住まい）な入居としていたが、そのまま、新たな場所に再度移転することなく現在に至ったという状況である。

Q 10～物産館整備の構想がスタートで、準備室も含めて、施設の整備については産業振興課が所管していたのか。

A 10～産業振興課が所管となっている。

Q 11～検討委員会の状況や進捗状況など、町民に説明は行っていたのか。

A 11～町広報誌等を活用して途中経過などを周知してきた。また、住民懇談会などを通じて各地域へ情報提供を行ってきた。しかし、懇談会への町民の参加が少なく、広く周知出来たとはいえない状況である。

Q 12～施設内の多目的ホールの稼働状況は？

A 12～現状としてはオープンスペースとしている。（通常はくつろぎの場所として提供）パーテーションで仕切っている隣の多目的ルームを配置しているが、会議等で利用している。（さらに仕切りを外せば大きなスペースとして利用可能）

Q 13～トイレなどの24時間開放している部分の維持費はどの程度か。

A 13～まだ半年であるが、施設全体で年間約1,000万円程度を想定している。時間帯やスペースごとの維持管理コストは算定していない。そして、この維持管理費は指定管理料に含めている。

Q 14～現在のパン屋以外に、出店希望はなかったのか。

A 14～無かった。もう少し希望があると思っていた。町内には元々パン屋はなかった。

Q 15～新規創業の支援内容は。

A 1 5～創業に要した経費の2分の1、上限が300万円。その他、資金の借り入れにかかる利子補給の制度を条例化した。

Q 1 6～出店業者の選定は町、商工会どちらが行ったのか。

A 1 6～商工会で行った。オープンに向けて準備事業として商工会に委託した。出店の募集業務の他に、施設の館長など関係従事者の募集なども含めて委託した。

Q 1 7～24時間開放エリアとの区切りは？

A 1 7～夜7時にシャッターで多目的ホールと通路部分が区切られる。トイレと自動販売機コーナーのみとなる。バスターミナルは最終バスの運行が終了次第、閉鎖する。

【現地施設見学】

(2) 名寄市交流拠点施設の管理運営及び施設見学～駅前交流プラザ『よろーな』

【視察先出席者】

名寄市建設部都市整備課 計画調整係長 武田 佳和

名寄市経済部産業振興室産業振興課 主事 山本 雄大

NPO 法人なよろ観光まちづくり協会 事業課長 藤原 雄司

①地域の課題とまちづくりについて

名寄市は交通の要衝として発展し、地域経済、医療等北北海道の多くの「人と物」が集まる中核都市となっている。

しかし、道内自治体と同様に少子高齢化、車社会の進展、大型商業施設の郊外進出等の影響により、市街地中心部の空洞化やまち中の活気が低迷してきた状態であった。

こうした状況を踏まえ、市街地の新たなまちづくりを進めるため、都市再生整備計画事業に基づき、駅前交流プラザの整備に着手した。

交流プラザの建設については、地元企業及び商工会議所と市とが連携して当該施設の整備に至っている。(JR 名寄駅横整備事業推進に関する基本協定)

②都市再整備計画の目的と整備方針

都市機能の強化や市街地の整備等による、賑わいと活力あるまちづくりを目標に計画的な整備を行っている。

各公共施設の整備や機能強化、駅横未利用地を活用したバスターミナルや市民交流機能を備えた複合施設の整備による市街地の再整備と都市機能の強化を整備方針としている。

よって、目的達成に必要な施設について、その整備方針に基づき総合的かつ計画的に事業を進めている。また、コミュニティバスや市街地の空間整備事業も含め、市街地エリアの再整備を行っている。

公共施設の整備やサービスの提供については、まちづくり全体の視点から検討し事

業化する必要があると感じた。

③駅前交流プラザの事業費について

駅前交流プラザ整備に要した期間は3年で、事業費は総額767,833千円となっている。

財源内訳～まちづくり交付金（国費）181,786千円

合併特例債など 586,047千円（一般財源含む）

④駅前交流プラザの運営について

施設の管理運営は、指定管理者として、NPO法人なよろ観光まちづくり協会が行っている。

協会の自主事業として、特産品などの販売（ショップ）、レンタサイクル、各種イベントの開催を行っている。

利用状況としては、昼間は高齢者、夜間は学生の利用者が多い。

視察当日は、複数の企業や商店の催事が開催されていた。

交流プラザの整備後は、交流拠点として人が集まり、賑わいの創出は生まれているものの、市街地中心部（駅前商店街：約100）における新たな人の流れをどのように経済活動に繋げていくかということを経後の課題として挙げていた。

⑤質疑応答

Q1～資料中の指標で、街なか交通量の記載に従前値より目標値が低い設定になっているが、この部分の設定方法について伺いたい。

A1～計画策定時に協議し、人口減少などの情勢を加味し、V字回復するような無理な設定をしなかったことによるものである。急激な減少を食い止め鈍化させているというのが現状である。

Q2～施設内の通路などの共有部分についての利用時間は。

A2～施設全体が22時に閉館となる。共用部分も含め22時には入館不可となる。

貸し室の利用は21時まで。

Q3～ショップの売り上げ状況は？（特産品などの販売）

A3～収支については赤字にはなっていない。

Q4～貸し室における物販、催事などの営利目的の利用も可能としているのか。

A4～商業利用についても使用可能となっている。文化団体やサークル活動については減免措置をしている。物販や催事については、家電製品や健康食品など多種多様な事業所の利用がある。

Q5～交流館でのFM放送は誰がやっているのか。

A5～市民ホールにあるコミュニティ放送局が、交流プラザに出張という形で館内から生放送を行っている。商店街や施設の利用団体からのお知らせなどの情報発信を行っている。（毎週）

Q6～商業店舗数はどれくらいか？

A6～約100店舗。以前は色々なものが購入できていたが、出店形態が大きく変化した近年では、福祉施設などが出店し、商店街としての役割が変わってきた。

【現地施設見学】

2 視察研修を終えて（9／26意見交換）

■意見1

浜頓別町の交流施設については、主に域住民の利用が目的であり、町外からの利用という点では交通量もそれほど多くなく、道の駅としてはどうかな？という感じがした。月形町でも施設整備した際は物販スペースは必要と思う。

■意見2

拠点施設については、月形町に必要なものを考えなくてはならない。場所や機能も大事だが「中身」が重要である。ハコモノよりソフト、施設が住民にしっかりと利用されるということを考える必要がある。

■意見3

浜頓別町の施設について、地域住民の交流のがメインであるため、道の駅としては少しインパクトに欠ける。（弱い）

月形町としては、町外からの来訪を意識すべきではないか。物販は充実させる必要がある。そこで、月形のものだけにこだわるのではなく、近隣市町の特産品もそろえ、「空知」や「北海道」を意識したものでも良いと思う。

■意見4

拠点施設の必要性、整備の目的などポイントを明確にする。町民の交流の場を整備するのであれば、拠点施設に絞るべきではないか。（観光の視点と混在させない）

バスターミナルを中心とした拠点施設は、町民の交流の場として、まち中に人が集まるような場所としてはどうか。観光機能や道の駅など両方の機能を備えるのは難しいと思う。誰のために、どのような施設とするかを明確にし、考えをブレずに方向性を示すべき。

■意見5

バスターミナルをどうするか、拠点施設の整備について優先的に考えていくべき。

皆楽公園の整備とは別に考える。バスターミナルや図書館の整備等、色々な機能を考えられるが、拠点施設は町民の交流場所としての整備が必要と考える。

建設場所や町民の利用のしやすさをしっかりと考える。

道の駅は観光を目的とした要素が強いと感じる。(やはり皆楽公園か?)

しっかりと時間をかけて議論し、町民理解も必要である。

■意見6

町のシンボルとなるような施設になってほしい。

安心してバスが利用でき、町の案内所としての機能があるといいのでは。(さらに売店があるとなお良い)

拠点施設は、子供から老人まで多くの町民が賑わえる場所として、さらにサロン活動についても、町外からの利用があってもいい。そして図書館機能もあっていいのでは。

道の駅については、町外からの来訪者(観光客)が楽しめるもので、賑わうところであると思う。そう考えると皆楽公園に整備して観光分野をまとめてはどうか。

浜頓別町の道の駅は、道の駅は人が多く集まるというイメージがあったため、少し物足りなかった。交流施設ということで町民利用がメインの施設であった。

拠点施設の場所について、小学校、中学校の課題(小中一貫校)が少し進んでいれば、構想で示されている小学校グラウンドの案を基本に、拠点施設の場所についても少し具体的な議論が出来る。

■意見7

月小の敷地で拠点施設を整備すれば、皆楽公園との連携も図りやすいのではないかと。

■意見8

審議会の開催状況や協議事項など、途中経過としてIP告知端末機で、町民に情報提供しては。拠点施設や皆楽公園の再整備について、町民にも興味を持ってもらわな

ければならない。詳しい内容は必要ないので、こうした議論がされているということだけでも情報発信できると良い。

■事務局

今日の各委員の感想や意見については、次回審議会において視察研修の結果報告で伝えていきたい。

次回審議会は、会議冒頭、視察研修の報告と具体的な協議に入っていくことの説明を行う。その後はグループ討議に入り、拠点施設の場所や機能などについて議論いただきたいと考えている。

【終了】

令和元年9月26日・27日 視察研修名簿

	役職	所属	氏名
1	会長	月形町農業協同組合 専務理事	福井 誠
1	副会長	月形商工会女性部 副部長	土井 町子
2	委員	月形商工会青年部 副部長	香西 雅之
3	委員	月形観光協会 会長	廣野 和男
5	委員	月形町赤十字奉仕団 委員長	松山 俊子
6	委員	公益社団法人 北海道観光振興機構 地域支援本部 地域観光部長	生川 幸伸
7	委員	会社員	梅木 悠太
8	町職員 事務局	月形町 企画振興課 課長	五十嵐 克成
9	町職員 事務局	月形町 企画振興課 参事	藤原 栄一
10	町職員 事務局	月形町 企画振興課 課長補佐	竹内 晶